

◆技術交流

アワビ一貫養殖と漁協直販視察

與那嶺 盛 次

1. 目的

伊是名村漁協と伊江漁協では、トコブシの種苗生産と陸上養殖を行っている。そこで、アワビの種苗生産からの一貫養殖と漁協直販を実施している岩手県の漁協等を視察して、養殖経営や販売知識の向上を図る。

2. 日程

平成16年8月17日～8月19日

3. 視察先

岩手県広田町漁業協同組合
マリーン開発株式会社

4. 視察参加者

名嘉治市(伊是名村漁協指導漁業士)
我那覇文紀(伊是名村漁協職員)
宮里義高(伊江漁協指導漁業士)
比嘉良雄(伊江漁協参事)

5. 引率者

與那嶺盛次(沖縄県水産試験場普及センター
専門技術員)

6. 視察内容

平成17年8月18日午前、広田町漁協事務所にて清水参事の説明を受けた後、漁協アワビ種苗生産施設及び漁協直売店を視察した。種苗生産施設は、昭和61年度栽培漁業事業化促進事業で整備された。種苗生産数は120万個で、アワビの種類はエゾアワビであった。放流種苗は無償で配布しているため、成長の早い殻長4cm種苗をアワビ養殖部会(11名)に販売し、種苗生産施設の運営費1,700万円を賄っていた。海底に設置した取水井戸3基が有効に機能しているとのことであった。

種苗生産施設の職員は場長1名で、付着珪藻培養や出荷作業等必要に応じて女性のパート5～6人を雇い入れていた。漁協直売店は過疎地にあるため、それほどアワビの販売量は多くなくファクスによる大手スーパーへの注文販売が多いとのことであった。アワビ養殖部会が海上で実施している垂下式養殖のアワビ出荷量は、2～3トンで少ないため陸上養殖による安定出荷を計画していた。

8月18日午後、マリーン開発株式会社にもむいた。古川専務の説明の後、アワビ陸上養殖施設を視察した。マリーン開発はアワビの種苗生産からの一貫養殖を実施し、3事業所を保有する日本一の規模の養殖会社であった。養殖に使用する餌料は全てアワビ用配合飼料であった。コンブ等の餌料となる海藻もあるが、使用する量が多量であるため配合飼料でなければ安定供給が難しいとのことであった。こちらも養殖しているアワビの種類はエゾアワビであった。

従業員は20名(うち正職員7名)であった。アワビ販売金額は2億円で、販売内訳は成貝50トン(7～8割が活アワビ)及び稚貝販売であった。大手観光ホテルへの注文販売とファクスによる大手スーパーや割烹等への注文販売が主であった。

7. 所感等

トコブシとエゾアワビでは種類が違っても種苗生産方法や養殖方法に似通ったところが多く、養殖経営方法や販売方法は大変参考になりました。今後のトコブシ養殖経営に活かしていきたいと思います。最後に視察を快く引き受けてもらいました広田漁協やマリーン開発株式会社の皆様に心より感謝申し上げます。



① 広田漁協清水参事の説明



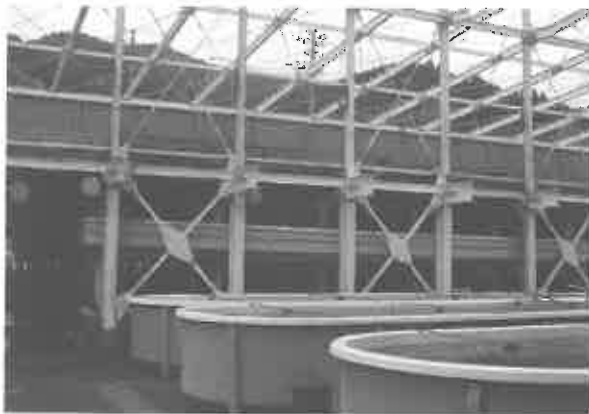
② アワビ種苗生産施設(広田漁協)



③ 広田湾海産直販店(広田漁協)



④ 広田湾海産直販店内部(広田漁協)



⑤ アワビ陸上養殖施設(マリン開発)



⑥ 養殖中のアワビ(マリン開発)



⑦ 出荷サイズの選別(マリン開発)



⑧ 視察に参加した皆さん